



第79回かすがい芸術劇場
セレノグラフィカ ダンス公演

ダンスでスタート!!
踊るピクニック in かすがい

2/11(月・祝) 15:00~(開場は30分前)
| 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール、他
[チケット情報]
PiPi会員電話先行予約12/5(水)~7(金)
一般発売12/8(土)~
[料金] ¥2,000、ペア¥3,600
PiPi会員¥1,800、ペア¥3,400
全自由席、当日券同額、未就学児不可



[取扱] 文化フォーラム春日井・文化情報プラザ、電話予約、チケットぴあ(Pコード425-406)
[助成] 財団法人地域創造
(平成24年度公立ホール現代ダンス活性化支援事業)

セレノグラフィカ ダンスワークショップ

未経験者大歓迎!

一緒にピクニックを盛り上げてくれる方、大募集!
セレノグラフィカによるワークショップ

2/7(木)、8(金) 18:30~21:00
2/9(土) 14:00~16:30
2/10(日) 15:00~17:00 <リハーサル>
2/11(月・祝) 15:00~17:00 <本番>
| 文化フォーラム春日井・視聴覚ホール、他

[申込] 2/3(日)<必着> [参加費] 無料
[応募方法] FAX、ハガキまたはメール。
WS名・氏名(中学生以下は保護者の氏名も)・年齢(学年)・性別・〒・住所・電話番号を記入。
[応募先] FAX 0568-82-0213
メール: ws7@kasugai-bunka.jp
(件名:「セレノグラフィカWS」申込み)
※詳しくはHPまたはチラシをご確認ください



スミジとアビル
クマとサル
春日井周遊
Let's Dance!

「足」の指の間
すべてに、
手の指をきっちり入れてみてくださういこれ
は足指体操とい
う、セレノグラフィカのワーク
シヨップの一つ。考えもつかなか
った身体との接触に、参加
した春日井市内の小中学校の
先生も驚き気味です。「ルール
はできるだけシンプルに、一
人一人の身体をゆつくりとチュー
ニングしていくんです」とスミ
ジさん。歩くエリアがどん
どん変わる「田の字
ダンス」では、十九
人の先生たちが
三メートル四方の小さな
空間を他人とぶつからないよ
うに走り回る。「身近なところ
で、身体に効く運動があふ
れているんだと再認識しまし
た。ダンスを通して気持ちも
ほぐし、より良い人間関係を
築き、教育を充実させていき
たいです」「歩くという基本的
なこと、あんなに遊べるなん

え、こんなことも!?
先生たちも体験、
身体遊び

市内にある小中学校の先生方を対象にしたワークショップ
2012/10/12 @文化フォーラム春日井・視聴覚ホール



て目からウロコで「先生たちから、たくさん感想をいただきました。そして二月、今度はあるあなたが、セレノグラフィカ流ダンスを味わう番です。「技術の向上よりも何よりも大切なのは、自分の身体が他の誰とも違うものであることを実感すること。その同じ身体を他者も所有していると思いがけない発見と出会いが、ダンスと共にやってきます。」

次号は春日井周遊の様子をお届けします



「ダンスと一口でいっても、さまざま」

なダンスがあります。スミジさんとアビルさんが出会ったのは九十年代初頭。各ジャンルが屹立しあう中、二人は全く別のダンス業界にいました。「なんで笑顔で踊ってるの?」アビルさんはスミジさんの「ジャズダンス」を観て、衝撃を受けます。同じようにスミジさんはアビルさんの「モダンダンス」を観て「なんで無表情なの?」。

二人の出会い、突然に…
ジャンルを超えて。

二人は偶然一緒に踊ることになりました。「彼がリフトしてくれると、身体がふわって持ち上がるんです。初対面なのに、今までで一番、息が合うなって」。ジャンルを横断して踊ることが一般的でなかった時代に、二人は一緒にダンスをする方法を模索し始めました。そして九七年「セレノグラフィカ」を結成。新しいスタイルを目指した二人だからこそ、そのダンスはいつも自由さに満ちています。



紅白の大きな煙突が目印!ネビアのまち春日井の「王子製紙工場」に見学に行ってきました~お二人とも感動の嵐!

「踊るぬいぐるみ」隅地菜歩、「かかとのない男」阿比留修一。
踊り始めるとなぜか間と呼吸があう、ちょっと変な男女のダンサー、セレノグラフィカ。
この冬、文化フォーラム春日井を席卷します。

「ア」

ビルさんがスミジさんのお尻をひたすら触って…! どつかれたり牽制しあう様を「ダンス作品」として発表したり、前回のラストシーンから次回上演を始めるという珍しい創作スタイルをとった。日常の何気ない動作やシーンを、まるで変化する月のように、思いがけない形でダンス作品として上演してきたセレノグラフィカ。彼・彼女がここ数年重視してきたのは、地域性だといいます。「日本はもちろん、世界各地でダンスを踊ってきたが、同じ作品を上演するにしても、その土地に合った上演がいかに大切かということを感じています」とアビルさん。「作品を

スミジもアビルも、
どちらも本名。
彼・彼女のダンスは、
まるで変化する月のよう。



劇場や地域になじませながら、再現ではなく、再生につなげたいと思っています。場所はもちろん、観に来てくださるお客様やスタッフとの交流も、作品の重要な要素になってきましたね」と語るスミジさん。二人は二月の上演会場である文化フォーラム春日井・視聴覚ホール以外にも、交流アトリウムやスカイフォーラム、施設の隅々まで見学されました。もちろん春日井市内も隅から隅

まで。「ダンスは言葉の母」という二人の作品には、標準語で語りきれない地域のナマの言葉が、独自の視点で散りばめられています。そんなお二人の名前も、生まれた土地や家族の歴史に関係するんだとか。春日井周辺では、あまりお見かけしない苗字。その由来も二人のワークショップで聞けるかもしれませぬ。

セレノグラフィカ in かすがい vol.01
ちよつと変な大人の、春日井ダンス

テキストスタッフ 武田里美、山川愛